

令和3年9月（第12回）光市教育委員会会議の要旨

1 開催日時

令和3年9月30日（木） 午後2時00分～午後3時15分

2 場 所

教育委員会事務局 1階ホール

3 出席者

伊藤教育長、河村委員、寺崎委員、平岡委員、武田委員

4 事務局

芳岡教育部長、原田学校教育課長、塩田学校教育課主幹、国広文化・社会教育課長兼人權教育課長、前田図書館長、村崎体育課長、清水学校給食センター所長、升教育総務課長、久岡教育総務課経理係長

5 教育長報告

- (1) 光市教育委員会委員の任命について
- (2) 小中学校の教育活動について
- (3) 施設一体型の「小中一貫ひかり学園」に係る進捗状況について
- (4) 「第2次光市教育振興基本計画」策定に係る進捗状況について
- (5) 県・市町教育長意見交換会の開催について

6 議 事

(1) 議案及び報告

ア 議案第19号 令和3年度光市教育委員会選奨の被選奨者について

(ア) 概 要

令和3年度光市教育委員会選奨の被選奨者を決定するため、本案を提出。

(イ) 内 容

光市教育委員会選奨規程に基づき、20名に表彰状、1名に感謝状を授与する被選奨者について決定するもの。

(ウ) 主な意見等

① 意 見

選奨に該当する方々のことは、各地域にどのように伝わるのか。

② 回 答

表彰式の同日に市長部局の表彰も行われるので、これと合わせて、集合写真などを市の広報で紹介する。

③ 意見

この情報の解禁日はいつか。

④ 回答

表彰式開催日の概ね一週間前の記者発表を想定している。

(エ) 議決

全員一致で承認される。

イ 報告第44号 令和3年第3回光市議会定例会一般質問要旨について

(ア) 概要

令和3年第3回光市議会定例会一般質問要旨について、教育長より報告。

(イ) 内容

概要のとおり。

(ウ) 主な意見等

① 意見

不登校の児童生徒数が増加傾向になっており、5年後には100人を超える人数になるのではないかと思う。全国的にも同じ状況と思うが、次の一手としてどのようなことを考えているか。

② 回答

現状では、スクールライフ支援員による自宅への訪問や、あそびばひかりのように、まずは家庭から外に一步踏み出すということを行ってきた。

新たに、学校に行けるようにするため、現在、試行中ですが、他市で言う適応指導教室や教育支援センターのような場所を設けて支援を続けたいと考えている。

③ 意見

学校に行くことができない子どもたちにとっては、そのような場所に通うことで、それを登校として考えることができるのではないか。

④ 回答

不登校の理由は一人ひとりケースが違うのでこのような違いにどのように対応できるかが求められている。次の一手としては、別の学び場やICTの活用をはじめ、小中一貫教育による小学校と中学校のつながりを強くしてギャップを無くしていこうという取組もあろうかと思う。こうしたことを総合的に考える必要があると考えている。

⑤ 意見

小学校から中学校に上がった途端に増加しているということが、まさにギャップなのだろうと思う。

小中一貫にすることで、場所に関しては、登校しづらいということが無くなるとよいと感じた。

すぐに対応できるものではないと思うが、長い目で進めてほしい。

(エ) 議 決

全員一致で承認される。

ウ 報告第45号 区域外就学の承認について

(ア) 概 要

区域外就学の承認について、事務局より説明。

(イ) 内 容

区域外就学の協議及び申請のあった6件を承認したことについて報告するもの。

(ウ) 議 決

全員一致で承認される。

エ 報告第46号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

(ア) 概 要

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について、事務局より報告。

(イ) 内 容

概要のとおり。

(ウ) 主な意見や質疑

① 意 見

小学校国語で、読むことの正答率が低いことが残念。議会の答弁でも、光市の学校図書館は強みであるとあったと思うが、広く文章に触れることは、すぐに結果につながらなくても、力を育めるのではないかと思う。

② 意 見

I C Tの活用率が全国よりも倍程度高い結果になっている。先生の経験によって生じる授業のばらつきを、I C Tを活用することで授業を平準化していく様々な仕組みを努力されているという背景もあるのではないかと感じたが、その手応えはあるか。

③ 回 答

I C Tの活用が直接学力に反映されているかということについてはまだ分析が必要と思うが、教員が新たな教具を用いて地道に研修を重ねながら授業改善に努め、有効に活用しようとした姿勢は、今回の結果につながっていると考えている。

④ 意 見

県内の校長が集まって情報交換するなかで、光市の通信状況が最も優れていると言われている。学校内で使っても十分につながらないという自治体もあり、そこからスタートしている状況。これは、教育総務課で改めて説明をお願いしたい。

⑤ 回答

1人1台端末導入にあたり、Wi-Fi方式かLTE方式かを検討した際、通信費用のことも考えて、Wi-Fiを選択して進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、家庭での学びの保障を踏まえて再検討した結果、いつでも、どこでも、だれとでもつながるということも含め、学びが深まるということも見込まれるため、LTE方式を採用したものの。

つながりにくいといった障害、ボトルネックのことについては、Wi-Fiよりも格段に少ないことがメリットの一つである。

唯一のデメリットである通信費用は、大量の台数を契約することによって、コストダウンが図れたもの。

こうしたことなどから、他市よりも取組が進んでいると考えている。

⑥ 意見

このデータは市でまとめた結果であるが、学校単位でもこのデータ分析ができるのか。学校によって結果が違うのではないかと思うが、平均化すると、各学校の特徴が分かりにくくなってしまう。飛び出ている学校があれば、その学校の授業がどうなっているかなど、互いに分析して違いを研究すれば、補うことができるのではないか。

もし、県内の学校を確認できるのであれば、光市で点数が低い部分に対応するヒントが得られるのではないか。

⑦ 回答

このデータを各校で分析してアクションプランをまとめ、10月に行われる定着状況確認問題などに向けた取組を行っている。年2回の検証・改善サイクルと呼んでいるが、こうした調査と比較しながら取組の成果を各校で分析・検証を行っている。

各学校にはそれぞれのデータが届いているが、全体を見渡すことができるのは教育委員会なので、各校の取組を分析し、どういった取組がよかったのかを研究している。

⑧ 回答

8月の終わり頃には各学校に国から結果が戻ってくるので、このデータをもとに校内研修を行って分析し、学校運営協議会にも公開したり、生徒達にもある程度は公開したりする学校もある。大概是、学校運営協議会までは公開し、意見をいただきながら次に進めている状況。

⑨ 意見

7ページに、地域行事に参加していますかという質問があったが、光市では特に中学校では高い水準にある。これは、地域が一丸となってコミュニティ・スクールを推進し、地域で子どもたちを育てていこうという意気込みの表れと思っている。

子どもたちにも、その思いをしっかりと受け止めてもらって、様々な行事に参加していただきたいと思う。